

第一部 基調講演

プロフィール



片田 敏孝 Toshitaka KATADA

1960年11月19日 岐阜県 生まれ

群馬大学工学部建設工学科 都市工学講座 教授

E-mail : t-katada@ce.gunma-u.ac.jp

【 学歴 】

最終学歴：豊橋技術科学大学大学院博士課程修了

学位：工学博士（豊橋技術科学大学 1990年）

【 職歴 】

平成2年 東海総合研究所 研究員

平成3年 岐阜大学工学部土木工学科 助手

平成5年 名古屋商科大学商学部 専任講師

平成7年 群馬大学工学部建設工学科 講師

平成9年 群馬大学工学部建設工学科 助教授

平成12年4月～平成13年9月 京都大学防災研究所 客員助教授

平成13年4月～平成14年3月 米国ワシントン大学 客員研究員

平成17年 群馬大学工学部建設工学科 教授

【 担当科目 】

公共経済学，計画理論，都市工学演習，地域計画学，地域科学特論

【 発表論文等 】

片田研究室ホームページ「研究成果」を参照．

<http://www.ce.gunma-u.ac.jp/regpln/works/index.htm>

【 受賞歴・表彰歴 】

・平成12年度 横山科学技術賞

「自然災害への社会的対応に関する総合的研究」

・平成12年度 日本自然災害学会学術賞

「河川洪水時の避難行動における洪水経験の影響構造に関する研究」

・2002年 国際自然学会賞（2002 Mohammed El-Sabh Award） 共同受賞

「An Estimation Method of Human Damage Due to Tsunami Inundation Flow」

・平成14年度 土木学会論文賞

「河川洪水に対する住民の災害情報理解と避難行動に関する総合的研究（総合題目）」

川から考える東京暮らし

群馬大学教授 片田敏孝

1．川を意識しない東京暮らし～知っていますか？近くを流れる川を～

都市構造物に埋もれる東京の河川～どこを流れているのかわからない川～

2つの流域認識：広い意味での流域認識、狭い意味での流域認識。

広い意味での流域認識：東京の安全を守る群馬の人々。

狭い意味での流域認識：そこに降った雨水の行き先は？、川から溢れた水の行き先は？。

2．新潟豪雨災害も流域認識の不足が被害を拡大させた！

上流で降った雨が近所の川を氾濫させた。

川から離れた人々の無防備な災害対応が被害を拡大させた。

氾濫による急激な浸水の展開、全てが想定外のなかだった。

何が住民を川から遠ざけたのか？

3．新ためて考える川の恵みと災い

川に近づくことの意味～恵みに近づき災いに近づく～

人為的にコントロールされ、作られた安全がもたらしたこと。

治水の功罪：確かに減った洪水災害とその裏で進んだ災いの忘却。

川はそんなに甘くない。自然はそんなに甘くない。

恵みの享受は当たり前、恵みの再生には敏感になる。

恵みも災いも川にしてみれば、当たりの振る舞い。

4．川と向かい合う暮らしの再生

東京の川も、やっぱり川。排水路じゃない、ドブじゃない。

取り戻したい川を意識した暮らし。

川を意識することが恵みを取り戻し、災いに備えることの原点。

今必要な、恵みを取り戻す取り組みと災いをやり過ごす知恵の獲得

恵みに敏感で災いに鈍感な人の特性

ハザードマップを賢く使おう！

神田川流域の市街化の変遷

市街化の変遷

昭和20年代初期



昭和30年代初期



昭和40年代初期

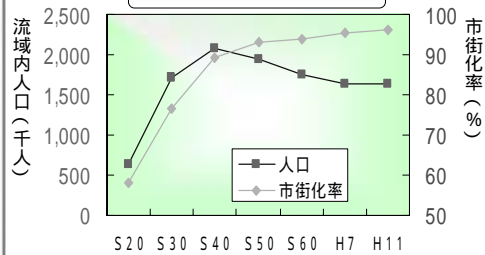


昭和60年代初期



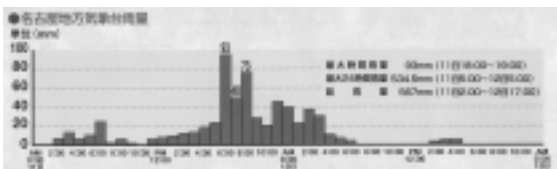
文京区後楽(水道橋)付近

市街化率・人口の推移



東海豪雨による被害状況

平成12年9月11日~12日



時間最大114ミリ、総雨量589ミリ(東海観測所)
死者10名、浸水棟数6万棟以上

国土交通省パンフレットより

東京都における浸水被害の例

H5.8 赤坂見附駅



H11.8 渋谷地下街



写真:毎日新聞

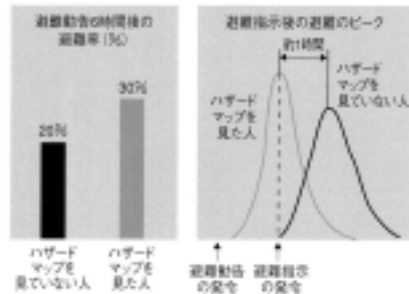
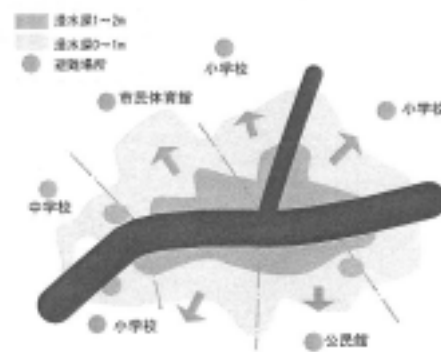
H11.7 朝日新聞



洪水ハザードマップ

- 水害に対する避難情報の事前周知

● 洪水ハザードマップ ●



ハザードマップの効果例(資料=国土交通省河川局、群馬大学工学部片岡研究室「平成18年8月関東豪雨における群馬市民の対応行動に関する調査報告書」をもとに作成)

洪水ハザードマップ(公表例)



資料: 新宿区

石神井川(北区滝野川・音無橋下流付近)の変遷 [2]



昭和40年代



平成12年



平成13年

目黒川(目黒区区民センター付近)



空堀川(川まつり)



隅田川(墨田区・吾妻橋上流付近)の変遷



昭和40年代



昭和50年代



平成8年



平成13年